

## 市長訓示

ただ今、晴れて平戸市職員として新たに入庁され、ここに大きな希望と決意を胸に整列された 17 名の皆さんに申し上げます。

皆さんは本日から、地方公務員としての自覚と全体の奉仕者としての責任をしっかりと認識して、「市民の利益のために何をなすべきか」を肝に銘じながら、若者らしい迫力に満ちた前進を続け、一日も早く郷土の発展のための逞しい原動力となって頂きたいと思います。

いま皆さんの胸の中には、「わがふるさと平戸のために尽くすぞ」という溢れんばかりの固い信念が漲っているように見受けられ頼もしく感じます。

さて、これまでは公務員に対する良くないイメージとして「安定した職業でリスクが少ない」と捉えられている傾向もありましたが、現実決してそんな悠長な職場環境ではありません。実際に業務と直面して真剣になればなるほど大変厳しく、時には待ったなしの局面が待ち受けていることを思い知らされます。

当然のことながら、時代の流れとともに様々な分野において、変化に適応しなければならぬ課題が次々と押し寄せており、それは個々人の価値観の多様化から天変地異など自然現象の在りようまで多岐にわたり、これまでの経験や想定をはるかに超えた対応が求められる現実に悩まされることが多々あることも事実です。

どうか先人が遺した「初心忘るべからず」の教訓を胸に上司や先輩職員の指導をしっかり受け止め、優れた組織人として一日も早く独り立ちしてください。

時代の変遷を先取りし、地域住民の皆様に信頼される職員として常に責任ある行動をとるよう強く求めます。

ここで改めて、全ての職員各位に新年度に向けた決意を申し上げます。ご承知の通り平成 30 年度は、平戸市総合戦略の 3 年目を迎え、また第二期平戸市総合計画スタートとなる節目の年となります。解決すべき行政課題は依然として山積しており、「市民が主役、行政は脇役」のスローガンのもと

これまで進めてきた事業はもちろん、予定されている重要施策や時代のニーズに適応しなければならない課題など、さらなる努力を重ねていかなければなりません。

ところで、3月19日の長崎新聞「デスクノート」という記者コラムで『安倍政権と田上市政の共通点』というタイトルに目を引かれました。ここで指摘された共通点が何かを整理しますと、安倍政権と田上市政が長期の在任であり、そのことによって政権の「おごり」と長崎市職員の「ゆるみ」が顕在化してきたということらしいです。

具体的に読み進めますと、安倍政権の「おごり」とは、学校法人森友学園への国有地売却に関する財務省による決裁文書改ざん問題に起因している政権への不信感であり、「民主主義を揺るがす事態」としてこれまで国会でもメディアでも集中砲火を浴びている事案です。事実の背景にあるものが政権の「おごり」かどうかは今後の論議や司法の判断に委ねるとして、気になるのは長崎市職員の「ゆるみ」と指摘されていることのほうです。

記事によれば、「長崎市議会における議案の修正や否決は今や長崎市の名物のようになっており」とあり、議会からの賛同を得られていないことの不備が「ゆるみ」だとの内容でした。その指摘が正しいかどうかは別として、一般的に組織というものは一定の緊張感を保持しなければ怠惰な空気が蔓延し、ゆるみが出てくる傾向があるでしょう。また付託されている権限などを履き違えて「上から目線」の姿勢が権力の腐敗を生むことも歴史の教訓により示されています。これらの指摘は常に胸に刻みつけながら組織人としての自覚と矜持を持たなければなりません。

記者が主張したいのは、おそらく信頼できる行政のあり方だと思われます。私たちは市民からの貴重な税金をお預かりし、この財源について将来世代を含め公平公正に活用しながら市民の幸福実現や安心安全の確保、経済活性化を描き施策遂行していくという任務を背負っています。黒田市政も早や9年目となりました。長期政権イコール「おごり」や「ゆるみ」とならないことを私たち自身の業務の成果によって証明していきましょう。

特に、平成 30 年度は、平戸城再築城 300 周年事業を筆頭に、様々な平戸の魅力を増強して発信できる千載一遇のチャンスに恵まれており、これまで進めてきた官民協働の底力を存分に発揮できるタイミングでもあります。

これまでの実績に決して慢心することなく、私たちは、ここに新しく加わった新人職員の皆さんの心意気と同じくして、フレッシュな躍動感を日々の実務に反映する決意を新たに、新年度のスタートラインに立ちたいと思います。

そして新人職員の皆さんは、これからの毎日を経験豊かな先輩の方々の厳しい指導を仰ぎながら、心を一つにして何事にも臆することなく全力を尽くして努力されることを強く要望します。

以上、新年度における職員の皆さんのさらなる活躍を期待して、年度当初の挨拶といたします。

平成 30 年 4 月 2 日

平戸市長 黒 田 成 彦